



MINATO TOKYO

# Bulletin

みなと  
ユネスコ

MINATO UNESCO ASSOCIATION NEWS & CALENDAR

ISSUED BY/MINATO UNESCO ASSN. 16-3,SHIMBASHI 3-CHOME MINATO-KU TOKYO 105-0004/HIROSHI NAGANO PRES.  
発行所/港ユネスコ協会 〒105-0004 東京都港区新橋3-16-3 TEL・FAX 03(3434)2233 発行人/永野博  
Mail:info@minatounesco.jp http://minato-unesco.jp

2017年9月1日発行 第149号

目次	
P1 巻頭言	P7 坐禅体験講座
P2 国立西洋美術館講演	P8 ゆかた着付け体験教室
P3 都立三田高校生徒の来訪	P9 日ユ全国大会
P4 ミャンマー家庭料理	P10 事務局便り/編集後記
P5-6 新入会員を囲む会	

## 「会津」から港ユネスコへの思い

常任理事 渡部俊子



私は今、福島県の湯川村と言う会津盆地の中心に位置する所、過大な表現だと日本のお臍にあたるような場所に住んでいる。現在、月の半分位は三郷と会津を行き来している。私が往来のスケジュールを調整する一方、主人は永年三郷に仕事の基盤があるので、事務所にはリタイアするまで居るとのこと。この事務所には居住空間が有るので、三郷に来た時はとても助かる。では、何故会津にいるのか？長年私の港ユネスコ協会(MUA)におけるボランティア活動へのよき協力者・理解者であり、仕事も頑張って来た主人に感謝の気持ちも含め、暫定的な定年後(個人事業者なので定年無し)の選択権を与えたところ、自分の理想郷として選んだのが会津であった。要は「田舎暮らし」をし

たいのだ、と思った。私は最初躊躇したが、何回か車で行き来してみても3時間程度の移動で済むと判ったので、これならいいかなと思いはじめた。元々、家庭菜園が好きなひとなので、年齢と共に思いが強くなり趣味が高じたのだと感じた。また、会津という場所は四方八方を山に囲まれており、東に磐梯山、西に駒ヶ岳、南に茶臼岳、北に飯豊山を望み、四季折々の風景が美しい。秋になると帰宅途中、稲を刈った後の田んぼに白鳥が群れをなして落ち穂拾いしている姿が見え、何とも愛らしく毎年楽しみにしている。

2011年3月11日、あの日、「東日本大震災」が東北を襲った。その時、娘の家族は仙台の青葉区におり、暫く連絡が取れない状態であった。それは殆どひとが一斉に携帯を使用したため、回線が飽和状態になったことが原因であった。その後、やっと安全の確認がとれ、何日か後に娘から、一般のひとは通れない被災地海岸沿いの様子を写した携帯ビデオが送られてきた。想像もできないような悲惨な光景であった。日本ユネスコ協会連盟は「3.11」被災者救援のため「東日本大震災子ども支援募金」を立ち上げ、MUAでは各事業を実施する度に募金箱を用意しコーアクション活動を行ってきた。震災は町や施設ばかりでなく家族をも破壊した。残された子どもたちの将来を考えると、MUAの募金活動は今後も続けて行かなくてはならないと思う。

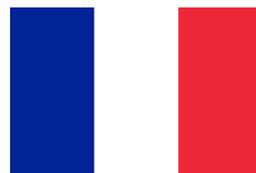
(P.6へ続く)

# 国立西洋美術館 講演と常設展鑑賞

日時：2017年5月19日 金曜日 午後6時から8時

講演：「松方コレクションと西洋美術館」

講師：国立西洋美術館 主任研究員 陳岡（じんがおか）めぐみ氏



陳岡氏（写真）は、2005年に東京大学総合文化研究科で博士号を取得。2007年に国立西洋美術館の研究員となってからは、フランスの歴史と文化を紹介する多くの展覧会を企画・実現してこられた。2017年2月、フランス共和国政府よりフランス芸術文化勲章を受勲しておられる。今回、港ユネスコ協会のために特別の講演を準備して下さいました。

## 講演内容：

1959年に発足した国立西洋美術館は19~20世紀の近代フランス絵画が主要なコレクションになっており、その基礎となったのは約370点の松方コレクションである。この大規模なコレクションを築いたのは松方幸次郎。明治の内閣総理大臣・松方正義の三男に生まれ、エール大学に留学。博士号を取得後、川崎造船所の初代所長に就任して莫大な収益を上げ、大規模なコレクションを築いた。彼の目標は日本に美術館を作って西洋美術を紹介することであり、実際「共楽美術館」と命名して具体的な設計も完成していた。しかし関東大震災や世界的不況などの不幸な出来事が重なり、この美術館は実現に至らなかった。



松方幸次郎は1916年、ロンドンを皮切りにヨーロッパで作品収集を開始。「600点も購入した実業家」として当時の日本の新聞にも紹介されている。購入にあたっては、イギリスのフランク・ブラングイン、フランスのレオンス・ベネディット等の専門家からアドバイスを受け、また成瀬正一ら日本人のサポートもあった。その膨大なコレクションは3つに分類される。(1) 購入後、日本に送られたもの 約1,300点 (2) ロンドンで保管されたもの 約900点 (3) パリのロダン美術館で保管されたもの 約400点。(1)は国内で散逸、(2)はほとんどが火災で焼失、(3)はフランス政府に接收されたが、戦後に日本政府に寄贈返還された。

「フランス美術を紹介して欲しい」とのフランス政府の希望があり、国立西洋美術館の誕生に繋がった。

1959年当時の新聞記事を見ると、開館に際しての人々の熱狂ぶりがよく分かる。西洋美術館に作品を搬入するトラックには「松方コレクション」と大書され、大勢の人が見守る中で作品の梱包が外されている。今では絶対に行わないことだ。また、「松方展ガール募集」の記事も見られる。恐らく受付係として若いお嬢さんたちを集めたのだろう。当時の様子や作品購入のエピソードを知る方がおられたら、是非経験談をお聞きしたい。

また今年末には松方コレクションの西洋美術の総目録の改訂版を出す予定である。図書館などで見かけたら、是非手に取って眺めて頂きたい。

講堂の大きなスクリーンに次々と名画を映して頂きながら、以上のお話を聞くことが出来た。松本家から寄贈された「ブラン氏」(マネ作)も紹介された。講演後のアンケートには「そんなことがあったのかと何もかも驚きでした。」「陳岡さんのコンパクトにまとまったお話が良かったです」「お話を聞いた後に観る絵は違う印象になると思います」等の感想が記されていた。

最後に、今回のイベントは、松方幸次郎の孫にあたる松本洋さん(港ユネスコ協会相談役)のご尽力と、馬淵明子館長のご配慮により可能となったことを付け加え、心よりの感謝を申し上げます。

(港ユネスコ協会副会長 宮下ゆかり)

# 都立三田高等学校・ユネスコ委員会の来訪

～ユネスコ活動と、戦争と平和 について考える～

日時 2017年 6月13日(火) 16:00～17:00 17名の生徒さん、川口直弘先生、山内理央先生  
6月19日(月) 16:00～17:00 15名の生徒さん、山内理央先生  
会場 港ユネスコ協会事務局



今年も都立三田高校ユネスコ委員会の生徒さん32名が、2グループに分かれて事務局を訪問してくれました。6年前から始まったこの会合では、昨年まで高井光子前会長が講師として戦中戦後の体験について話をしましたが、今年はずまず永野博会長からユネスコ設立の意義と日本の加盟を実現させた民間ユネスコ運動の話があり、次に清水軍治理事がご自身の体験を話しました。また、体験談だけでなく持参のアコーディオンの伴奏に合わせて、当時戦時中において国民の士気を鼓舞する目的で盛んに歌われた「同期の桜」や「ラバウル小唄」等の歌も披露し、どのような気持ちで当時の人々が歌っていたかを紹介してくれました。後日、川口先生から生徒さんお二人が書かれた感想文をお送りいただきましたので、下に掲載させていただきます。

## 感想文1：

私たち都立三田高校ユネスコ委員会は、港ユネスコ協会ではUNESCOの歴史や第二次世界大戦についてのお話を伺いました。ここで私たちは、漠然としていた「平和の根源」を明確に捉え直すことができました。

まず、UNESCOについてのお話を伺った際に、有名なユネスコ憲章前文ではなく「相互の風習と生活を知らないことは・・・戦争となった」という文にハッとさせられました。他国の文化や言語を知ることが、戦争の火種を生まないためにいかに重要かを再認識することができました。

また、戦争のお話で印象に残ったことは、本土にいた国民への影響の大きさです。国家総動員の真実を知り、これが日本だけではなく世界中で起きていた様子を想像したとき、言いようの無い恐怖を感じました。

決して惨禍を繰り返さないために、私たち一人ひとりが全力を尽くし自分の見た世界を後世に伝えることが大切だと今回学びました。

## 感想文2：

今回は、港ユネスコの活動内容と戦争についてのお話をお聞きしました。

前半のお話では、どのような活動かを具体的に聞いて、国際的な交流や、それを学ぶ場所は、案外身近なところたくさんあるのだな、と思いました。高校生になり、そういった活動に参加しやすくなったので、機会があれば参加してみたいです。

後半のお話では、清水さんのアコーディオンの弾き語りがとても心に残っています。戦時中だった当時、実際に歌われていたということもあってか、迫力がありました。また、実際に清水さんが体験された戦時中の話を聞くことができ良かったと感じました。当時の前線の様子や空襲の時の様子は何度か調べたことがありますが、私の周りには実際に戦争を経験したという人があまりいなく、体験談を聞くというのはとても貴重な体験だったからです。

今回これらの話を聞くことができ、今度は発信する側として、戦争というものと向き合っていきたいと考えました。



(事務局長 須田康司)

## ミャンマーの家庭料理

日時：2017年6月18日(日)

会場：港区立男女平等参画センター「リーブラ」

講師 ユユ ウェイ (YuYu Wai) さん

### 講師紹介

ユユ ウェイ (YuYu Wai) さんは、ヤンゴン出身。東京高田馬場で1977年に創業された都内では最も古いミャンマー料理店のオーナー。28年前に渡米されたお姉さまを引き継ぎました。以来リトルヤンゴンといわれている高田馬場で、本国人にも愛されている味を提供されています。



### 講師の母国紹介：ミャンマー連邦共和国 (Republic of the Union of Myanmar)

国土は南北に長くタイ、ラオス、中国、インド、バングラデシュと国境を接し南はベンガル湾、アンダマン海。かつては日本人には馴染み深いビルマとよばれていました。人口 5142 万人。国土は約 68 万㎡。首都はネピドー。ヤンゴンが最大都市。人口の 6 割はビルマ民族 そのほかカレン族、カヤー族など多民族国家。公用語はビルマ語。国民の 90%が仏教徒、その他キリスト教 4%、イスラム教 4%などです。



### ミャンマー料理

ミャンマー料理の特徴は豆を多く使う事 (いんげん、ひよこ豆など)、油もたっぷり使う事。そして、くせのない味付けが特徴です。発酵した茶葉 (ラペソ) を使う事もあります。南北に長く多民族国家ですので、それぞれの調理もありますが、今回はヤンゴンの家庭料理となりました。

### 【当日のメニュー】

#### 1) ラ ペットゥ (LaPetThop)

発酵させた茶葉、干しエビ、ナンプラー、レモン汁、ナッツ、キャベツ、トマトをまぜたもの。



#### 2) トゥ フ ジョ (Fried Yellow Tofu)

ミャンマー風豆腐 (ひよこ豆でつくられている) をサラダオイルで揚げたものに、スイートチリソースを加えたヌクナムを添える。



#### 3) ナン ジートゥ (Nang Jii Thop)

ひよこ豆パウダーを水で解いたものに、玉ねぎ、ニンニク、しょうがを炒め、さらにココナッツミルクを加えたものと混ぜる。あらかじめ味付けした鶏胸肉を加え、うどん、きな粉、ナンプラー、レモン汁を加えて味を調える。ゆでたまご、コリアンダーで飾り付ける。



参加者には、すでにミャンマー料理をご存じの方もいましたが、大方は初めてだったようです。そして当日下準備の必要な食材については、先生が用意してくださり手際よく実習終了。その後に、先生とゆっくりお話しする時間があり、よかったです。皆さん大変喜んでくださいました。先生のミャンマーファッションも素敵でした。また、大庭料理委員長によるミャンマー仏教寺院のプレゼンも素晴らしかったです。そしてたった 3 名の料理委員とお手伝いくださった奥村副会長、参加者の協力のもと無事終えることができ、感謝の味文化紹介でもありました。

(世界の料理委員会担当常任理事 松崎加寿子)

## 2017年度 新入会員を囲む会 ・ ・ 活動内容の説明と懇親会 ・ ・

日時：2016年6月28日（水）18：30～20：30

会場：港区立生涯学習センター304室 および事務局

今年は、「民間ユネスコ運動」の活動が世界に先駆けて仙台で立ち上がり70年の節目となる記念すべき年。港ユネスコ協会も新たな会員を迎え入れて、一段と飛躍の年になるよう会が開かれた。

秋山雅代常任理事の進行のもと、この一年間に入会された方々に協会の活動内容を説明、そして懇親会。5名の新入会員が参加、迎える側は16名の会員で和やかな雰囲気の中で会が進められた。



<< ごあいさつ >> . . . . .

◇ 永野博 会長 . . . 歓迎のことばとユネスコの歴史

ユネスコ精神の根源に「相互の風習と生活を知らないことは、人類の歴史を通じて世界の疑惑と不信を招き、その不一致からしばしば戦争を引き起こしてしまう。これを克服することが大事。」という文言がある。戦後の日本は「平和国家として出発するために」を目的に民間の手で昭和22年（1947年）に世界に先駆けて仙台で「民間ユネスコ活動」を開始。今日では全国に280を超える団体が草の根活動をしている。その中、“港ユネスコ協会”はユネスコ憲章の精神に則り1981年に発足、今年の10月で設立36年を迎える。草の根運動の一つとして今後の皆さんの活躍を期待したい。

◇ 菊地賢介副会長：まずは一緒に何かひとつでも参画を！仲良く楽しく、その中で新たな友情が生まれることが我々の目的です。

<< ご紹介 >> 須田康司事務局長より新事務局員：高橋郁子さんを紹介

<< 7つの委員会 >>

昨年の展開内容と今年の抱負を語り、企画・運営に参画しての楽しみを説明。

- ◎ 会員開発委員会：秋山雅代常任理事・会員同士の交流をテーマに活動。国際交流の第一歩：大使館訪問の企画に参加なさいませんか？
- ◎ 広報プレティン・インターネット委員会：棚橋征一常任理事・活動内容を協会内・外に発信。和文・英文の編集、そしてWEBの運営の楽しみを分かち合いましょう！
- ◎ 国際学術文化委員会：佐藤律子委員長・「国際理解講演会」を年に3回、「ディプロマツツ レクチャー」1回、「シンポジウム」1回を企画・運営し、今日的话题をテーマとして区民に提案。
- ◎ 語学研修委員会：篠田健司委員長・昨年度より「初中級英語講座：笠原三郎先生教室を開講、「初級英会話講座」に加えての2つのコースに拡大。オリンピックに向けての要望に応じて展開。
- ◎ 世界の料理委員会：松崎加寿子常任理事・世界の味文化紹介と調理実習をテーマに年間3回展開。
- ◎ みなと区民まつり委員会：小林敬幸常任理事・緑豊かな芝公園一帯で10月7日(土)・8日(日)で開催
- ◎ 文化体験教室委員会：平方一代副会長・日本の文化「書道」「浴衣着付け」「茶道」を紹介しての国際交流。今年は、全国の踊りと民話を楽しむシリーズ第2弾「熊本の踊りと民話」を10月7日(土)に開催。

## << 新企画イベント・ユネスコ全体イベントの説明 >>

- **坐禅体験講座** 港区愛宕の萬年山 青松寺にて坐禅を6月30日(金)18:30～都心で仕事帰りに「坐禅」を・・・山門をくぐり、都会の喧騒から離れられる「坐禅」を提案。
- **日本語スピーチコンテスト** 国際相互理解をテーマに外国の方による日本語でのスピーチ大会。9月30日(土)、田町のリーブラホールにて。未永く続く会となるよう準備中。
- **日本ユネスコ運動全国大会 in 仙台** 7/15(土)～16(日)  
テーマ：発祥の地 仙台から世界へ UNESCO 憲章の理念を未来に！
- **関東ブロック・ユネスコ活動研究会 in 市川** 10/14(土)～15(日)  
テーマ：Peace for Tomorrow 広げよう平和の心  
各協会の活性化と会員増をめざし、共に語ろう『平和活動』



## << 懇親会 >>

事務局内に席を移し、迎える側の会員の自己紹介を含め、種々の質問を頂き対応した。

最後に、事務局の役割を須田康司事務局長より説明。予算策定、事業(イベント)の発信、申込み受付、港区教育委員会との連携、日本ユネスコ協会との運動をしながら各委員会活動の支援をしていくことが主な仕事です。「お気軽に新橋の事務所にお電話、お立ち寄りください。」の言葉を締めとして和やかな雰囲気の中、「新入会員を囲む会」を無事終了した。(会員開発委員会 常任理事 小林 敬幸)

---

### (P.1 から続く) 巻頭言：「会津」から港ユネスコへの思い

その後、日本では熊本地震も起きたが、世界的にゲリラ豪雨、台風の巨大化、海水温の上昇がみられ、もう地球が悲鳴を上げており、地球温暖化が益々ハイスピード化しているようで不安になる。これから成長していく子供達のためにも、「ストップ・ザ・地球温暖化」の運動を進めて、大人として、また同じ地球人として、自分にできる役割を果たして行かなければならないと感じている。

私が初めて MUA のニューイヤー・フレンドシップ・パーティーに参加したのは 1987 年であった。場所は葵会館だったと記憶している。MUA のある港区は大使館や外資系の企業が多く、異文化に触れる機会に溢れた特色のある区だと感じた。パーティー会場での懇親会では、会員と一般の方や国際色豊かな外国籍の方々との交流が行われ、とても家庭的なよい雰囲気であった。そのため、その場で MUA に家族会員として入会した。

私が参加した国際交流委員会は、後に国際理解講座委員会へと名称が変わり、数多くの貴重な講演会を開催してきた。委員会メンバーの会議は夜に事務局で行われるが、軽食の「おにぎり」を食べながら、和気藹々とした雰囲気の中で、各事業について真剣な意見が交わされる。学識ある意見にも触れ、とても勉強になった。楽しい時間はあっという間に過ぎ、21時の閉館時間がきてしまう。帰りに皆でお茶などしてから帰途につくと、武蔵野線は終電の一本前になってしまい、帰宅が24時近くになることもあった。

私はボランティア活動においては、奉仕の心、平和を願う心、人は誰でも平等な権利を有すると思う心が大事だと思っている。ユネスコ活動を通して、微力ながら世界平和の実現に貢献できるよう、今後も関わって行きたい。

## 坐禅体験講座

開催日：2017年6月30日（金）  
場所：港区内愛宕万年山 青松寺

会員開発委員会の新規事業として新たに「坐禅体験講座」を開設する運びとなり、初回には30名のかたが参加しました。当日は初めに釜田無関師から日本語・英語による事前説明があり、その後、坐禅堂に移り坐禅を体験しました。体験後、皆さんに感想を伺ってみると、「大変貴重な体験が出来ました」、「参加して良かった」など大変好評で実行委員会としても一安心でした。

複雑な現代社会での人間関係や煩雑な仕事に流される毎日、そんな中で坐禅を組んでほんのひととき心を空っぽにして自分自身を観察してみると、普段気がつかなかった事が見えてくるはずです。自分の立場を基準にしてモノを見たり考えたりすると、現実とかけ離れた間違っただけで錯覚に陥ったり、自分の都合を優先したり、その時々感情に左右されたりしがちなものです。その繰り返しから人間関係にもひびが入って失敗することがままあるのではないのでしょうか？

私たちは正しい視点から物事を等身大で判断したり考えたりする必要があります。そのヒントとして、坐禅をライフワークの一つとして取り入れてみては如何でしょうか？坐禅は先達たちが残してくれた日本の文化遺産です。一度も禅坐を体験したことのない方でも、まずはただ坐ってみることからはじめませんか？気分がスッキリし、ゆっくり息を吸うことで不安や緊張が改善されて力がみなぎってくるはずです。是非、次回以降に参加して体験してみてください。



最後になりましたが坐禅体験講座開催にあたり、万年山青松寺そして山内寺院関係者の皆様から頂いたご協力に深く感謝申し上げます。

(港ユネスコ協会副会長 菊地賢介)

# ゆかた着付け体験教室

日時 2017年7月1日(土) 13時30分～4時00分

会場 港区立生涯学習センター203号室

参加者 25名(カンボジア、タイ、フィリピン、ミャンマーおよびルーマニアからの参加者を含む)

講師 星 陽子 さん

- 内容
- ①ゆかたの歴史を説明
  - ②講師によるゆかた着付けデモンストレーション
  - ③各自で着付けの練習
  - ④ゆかた姿で記念撮影
  - ⑤懇親会
  - ⑥脱いだゆかたをたたむ練習

## ☆参加者アンケート(外国籍参加者)

- とても素晴らしかった。
- ゆかた着付け体験は素晴らしい体験でしたし、東京での最も幸せなイベントでした。
- 可能であればゆかた姿で表を歩いてみたかったです。



## ☆参加者アンケート(日本国籍参加者)

- 自分で着れるようになり、良かったです。
- やはり難しいです。でも好きです。
- とても美しい日本の文化を身に纏ったような新鮮な気持ちと感激で一杯になりました。

## ☆ひとこと

日本の文化であるゆかた。夏の風物詩のゆかた姿で、祭りや買い物に出かける人が増えて来ました。自分で着付けが出来ることは豊かな夏の思い出です。今回の参加者は日本人4人、他は外国人となりました。和気あいあいの時間を送ることができました事を嬉しく思っています。

(文化体験教室委員会担当副会長 平方一代)

# 民間ユネスコ運動 70 周年記念 日本ユネスコ運動全国大会 in 仙台

テーマ：「発祥の地 仙台から世界へ UNESCO 憲章の理念を未来に！」

会期：2017年7月15日（土）～16日（日）

会場：仙台国際センター



「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」  
第2次世界大戦後の1946年11月4日、国際連合の教育科学文化機関（UNESCO）の創立総会で採択されたUNESCO憲章の前文に書かれた有名なことばです。

この崇高な憲章を掲げるUNESCOが誕生したというニュースは、敗戦の荒廃と混乱、そして落胆の中にあつた日本の人びとにとって復興への光明となり、未来への大きな希望となりました。

まず、仙台で1947年7月19日、土居光知・桑原武夫・上田康一の各氏が中心になって世界最初のユネスコ協力会を創立したことから、民間ユネスコ運動が始まりました。その後、この運動は瞬く間に日本中に広がり、世界にも広がりました。

（日本が国連に加盟できたのは1956年、UNESCOには1951年第60番目の加盟国として認められた。国連もUNESCOも第2次世界大戦の連合国が中心に設立したものであり、当初は日独伊などいわゆる旧枢軸国は加盟国になれなかった。）

今回の記念大会は、70年前の原点に立ち返って世界平和を願い、青少年とともに未来につながるメッセージを發しようと呼びかける、力強く、希望の感じられるものでした。

プログラムは次の通り：

：\*特別講演：「気候変動に挑戦する知と勇気をもつ若者を育てよう」

講師は、ノーベル平和賞受賞 ラジェンドラ・クマール・パチャウリ

\*みらい創造隊による「青年部がいざなう現在・過去・未来のユネスコ探検ツアー」

\*パネルディスカッション「高校生が届けるメッセージ」

～持続可能な社会の構築のために～

\*桑山紀彦医師の映像と演奏と講演「地球のステージ」

～ユネスコ憲章を踏まえて世界へのメッセージ～

\*パネルディスカッション「ESD・地球の平和を守ろう」～防災、自然環境、伝統遺産、人権・平和の実践

\*記念演奏 UNESCO 平和芸術家 二村英仁

\*UNESCO 無形文化遺産 秋保の田植踊

\*青年部による仙台宣言

\*民間ユネスコ運動 70 周年ビジョンの発表

\*青年のつどい～全国の青年が集い、青年ユネスコ活動のこれからのむけて考え、絆を深めよう



参加者は、全国各地のユネスコ協会会員をはじめ、中国、韓国、インド、ベトナムなど16か国からの関係者も含めて約900名にのぼり、記念大会にふさわしい盛大なものでした。当協会からは、永野会長、大元マリさん（仙台で民間ユネスコ運動を始めた上記の上田康一氏のご長女）など6名が参加しました。

（相談役・理事 高井光子）

## 事務局便り

【ようこそ 新入会員】 個人会員：栗原千春さん、丹羽祐子さん、前田幹博さん、務台未来さん、渡邊峰子さん

【今後の事業予定】（詳細は別途、チラシやホームページでご案内します）

☆10月4日（水）～12月13日 初級英会話講座、毎週水曜日、18:30～20:30、秋期コース全10回  
会場：港区立麻布区民センター

初中級英語講座、毎週水曜日、18:30～20:30、秋期コース全10回  
会場：港区立生涯学習センター

☆10月7日（土）13:30～16:00 熊本の民話と踊り体験教室

講師：民話 松本尚子さん（フリーアナウンサー・ナレーター）

踊り 藤間豊太郎さん（藤間流藤盛会熊本ブロック世話役・藤豊會主宰）

会場：港区立生涯学習センター・101号室 参加費：500円 定員：30名

☆10月16日（月）18:30～20:30 第1回国際理解講演会 「緊迫する東アジア情勢を語る」

講師：東郷和彦氏（元オランダ全権大使、京都産業大学教授・世界問題研究所長）

会場：港区立生涯学習センター・305号室

☆11月28日（火）18:30～20:30 シンポジウム

会場：港区立男女平等参画センター(リーブラ)ホール（みなとパーク芝浦・1階）

☆12月2日（土）13:30～16:00 書道体験教室 会場：港区立生涯学習センター・304号室

定員：20名 参加費：500円

☆2018年1月20日（土）13:30～16:00 日本語スピーチコンテスト

会場：港区立生涯学習センター・101号室

【ご協力のお願い】 常時受け付け中です。事務局までお願いいたします。

☆日ユ協連・東日本大震災子ども支援募金

【訃報】 会員の坂下妥子さんが去る7月25日に亡くなりました。謹んでお知らせ申し上げます。坂下さんは広報ブレティン・インターネット委員会のメンバーとして、英文ブレティンの作成に力を発揮して頂きました。また、ご趣味を活かして講演会他の事業で記録写真の撮影を担当して下さいました。長い間病と闘ってこられました。薬石効無く長逝されました。ご冥福をお祈りいたします。

**港ユネスコ協会事務局（火～金 10:30～17:00）**

〒105-0004 東京都港区新橋3-16-3 TEL03(3434)2300 TEL・FAX03(3434)2233

Eメール：[info@minatounesco.jp](mailto:info@minatounesco.jp) ウェブサイト：<http://minato-unesco.jp>

### 編集後記

- ◆地球規模での異常気象が報じられる中、世界一丸となって地球温暖化に対応しようとする「パリ協定」からの離脱を決めた米国政府の動きはただただ呆れるばかりである。（須田康司）
- ◆価値観や体制の異なる国家との融和が、制裁だけでなく対立回避の重要な要因かも知れない。（前田幹博）
- ◆不安定な気候、不安定な政治、不安定な世界情勢。平和で平穏が私の願いです。（小林真弓）
- ◆当委員会では、編集、Web いずれでも、前田委員長、小林副委員長に続く助っ人募集中！（棚橋征一）